



第204号

2025/11/14

編集  
代田・九条の会  
小澤 清子  
伊東 宏

itohiroshi1007@gmail.com

ホームページ : <http://www.daita-9jo.sakuraweb.com/>

## 代田・九条の会News



# 「生きづらさの正体を見極めること」前川 喜平さん大いに語る

10月26日、あいにくの雨もようでしたが、うめとぴあで、九条の会まつざわ、代沢九条の会と代田・九条の会の共催で、前川喜平さんをお招きして、「子どもたち・私たちの希望と不安～生きづらさの正体はなあ～に？～」のお話を聞きました。

前川喜平さんは、元文部科学省事務次官で、現在は現代教育行政研究会の代表をされており、ボランティアで自主夜間中学校の講師をされています。

日本の社会を覆っている不安、とりわけ子供たちが幸せではないことを、事例を交えて紹介されました。本来子供を幸せにするはずの学校で、不登校の児童・生徒が年々増加し、また、教師も精神疾患を患う人が増えており、とても、子どもたちを幸せにはしていないとのことでした。

この「生きづらさの正体」として、① 新自由主義の蔓延とアベノミクスの失敗、② 金権腐敗政治、③ 対米従属政治、④ 国家主義の台頭と自由の抑圧の4点を挙げました。

新自由主義の波及の中で、「子どもも教師も競争させられている」として、全国学力テストと教員評価の状況を詳しく話されました。学力テストをめぐってはその弊害が明らかになっており、また結構不正も行われているとのことでした。教師に対して、一般企業並みに目標管理が実施されてきたが、効果が上がっていないとされている。いずれも「評価して競争させれば成果が上がる」という新自由主義からきていると指摘されました。

国家主義（=人間より国家を優先する思想。戦前日本の国體思想）が、2012年の自民党の改憲草案や2025年の参政党的「新日本憲法（構想案）」などに表れている。特に参政党的ものは排外主義と「国體ファシズム」が強く表れており注意が必要。自分の思想を持たない人間が、国家主義や国體思想を自分の思想にする、と指摘されました。

お話を終わりに、「私たちに「希望」はあるか？」として、「生きづらさを解消するためには、まず生きづらさの正体をしっかりと見極めることが大切です。外国人、高齢者、生活保護受給者、公務員、教師など、架空の「敵」を作り、本来の敵の姿を隠し、社会を分断する政治にNOと言いましょう。「だまされない力」をつけましょう。そのためにも学校教育と社会教育で、もっと人権教育、平和教育、主権者教育を充実させていくことが求められています。」と結ばれました。

参加者は64名でした。休み時間にはたくさんの質問事項が寄せられ、丁寧に答えていただきました。  
(代田2丁目・伊東宏)



## 別添資料

10月25日、九条の会事務局声明「高市極右政権成立による憲法9条破壊と戦争国家体制づくりに立ち向かおう」が発表されました。同封しますのでご一読ください。

## 世田谷・九条の会 創立20周年のつどい(11月15日)に参加して

世田谷九条の会の福島 和夫さんの開会のあいさつに続いて、映像ディレクター・宮本 友介さんの、「映像による戦争体験の継承と傾聴」と題しての講演です。宮本さんは戦後80年たち、戦争体験者の体験談の蒐集と継承について、体験者の話を映像(録音も含め)として残すことの大切さをお話しさされました。戦争体験者の表情や声を紡ぐ“間”・視線が、証言集や手記ではわからないからだとことです。世田谷には、およそ8万人の戦争中生まれの区民が在住しており、その方たちの体験を蒐集するのに、区では予算の都合上年に2件程度が限度なので、市民自ら活動に参加できないかと。今はスマホがあれば誰でも撮影できるので、相談にのっていただけるそうです。

もう1つの講演は、東京慈恵会医科大学名誉教授・九条会事務局員の小沢 隆一さんです。「戦後80年と九条の会20年」—戦後100年を見えた私たちの課題ーと題して話されました。戦後80年の憲法9条の歴史(成立と朝鮮戦争を契機としてねじ曲げられてきた過程)、九条の会の20年の運動の意義、そして憲法9条の現在(大軍拡と改憲問題)といま憲法9条をどう生かすのか、その手がかりについてです。

憲法9条を生かすためには、保阪正康さんの言葉を借りて、憲法9条は「平和憲法」ではなく「非軍事憲法」なので、平和憲法になるには「平和の思想」が必要だとのこと。「平和の思想」とは、被団協の思想である「受忍論」批判の思想・核兵器廃絶の思想(核抑止力論克服)・軍事同盟からの脱却の思想です。

これまでの歴史を振り返り、9条明文改憲を阻止し続けてきたのは、9条の会をはじめとする運動の力です。これから、憲法学習と運動の統一を!と。運動のところは、どう大きくしていったらいいのか、最悪の高市政権のもと、悩ましいところですが、まずは継続は力と思い、九条の会の活動を続けて行きたいと思います。

(代田4丁目・萱野 幸子)



### 集会等の紹介

12月6日(土) 13時半~16時50分

NO WAR! 21世紀を子どもの世紀に! 平和の世紀に!

基調講演:「民主主義が壊れる ~対話する社会を~」

暉峻 淑子さん(埼玉大学名誉教授)

場所: 東京労働会館 7階 (ラパスホール) (JR大塚駅下車・徒歩約10分)

主催: 第71回 子どもを守る文化会議実行委員会

### 代田・九条の会は創立から17年

2008年11月3日、代田区民センターで、64人が参加して会が発足しました。趣意書では、

「・・・代田で暮らしている私たちも、さまざまな考え方や立場の違いを超えて、

「九条の会」のアピールに応え、「日本国憲法第9条をまもる」という一点で、

ご一緒できる手づくりの会をつくり、戦後60余年続いた平和の道・「戦争しない

国」をまもり続けていきたいと考え、」としています。

17年たった今、7月の参議院議員選挙では、自民党を過半数割れには追い込んだものの、戦後最悪とも言われる高市自民・維新連立内閣が成立し、大軍拡をはじめ「スパイ防止法」の制定など戦争への道をさらに推し進めようとしています。

これからも、全国の運動とも連携しながら、地域での運動を進めていきましょう。

～私たちが住み、暮らし、働いているまち 代田で、

「日本国憲法第9条」をまもり、活かす活動をすすめましょう～

+++ このニュースを、ぜひ、周りの人々に広めてください。 +++